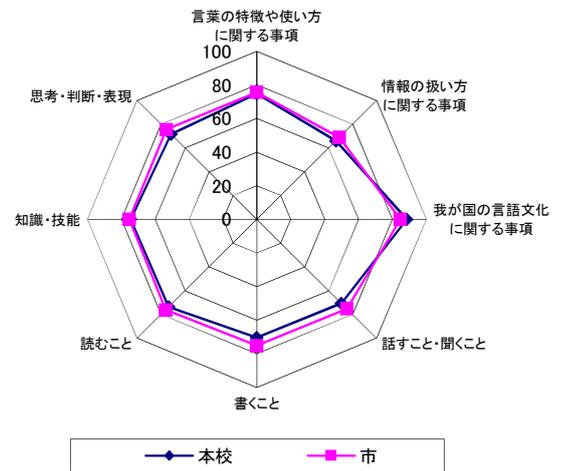


宇都宮市立旭中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.8	75.6	66.5
	情報の扱い方に関する事項	66.1	69.0	62.0
	我が国の言語文化に関する事項	88.6	84.7	78.2
	話すこと・聞くこと	70.5	75.3	69.4
	書くこと	70.3	75.2	65.1
	読むこと	73.8	76.2	68.8
	知識・技能	74.5	75.3	66.7
観点別	思考・判断・表現	71.7	75.6	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

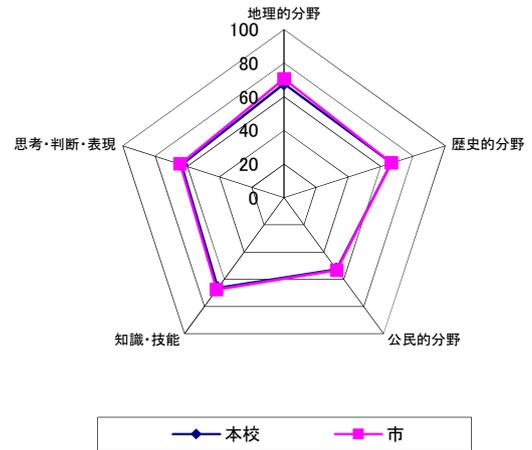
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>○「敬語について理解する」の問いでは、正答率が市平均を10ポイント上回った。また、「対義語について理解する」問いでは、9割超の正答率であった。</p> <p>●全体の正答率が、市平均を0.8ポイント下回った。</p>	<p>・毎時の小テストを通して、基礎的な漢字の技能を高める。また、補助プリントなどを活用した反復学習を行うことで、文法などの基本的な知識の定着を図る。</p> <p>・言葉の意味を適宜確認し、語彙力を高めていく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>○「情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する」問いの正答率は、市平均と同程度であった。</p> <p>●全体の正答率が、市平均を2.9ポイント下回った。</p> <p>●「情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する」問いの正答率は、市平均を5.9ポイント下回った。</p>	<p>・原因と結果、意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報の関係を確認しながら文章を読解していく活動を行う。</p> <p>・「書くこと」の領域と関連づけながら、情報を整理する活動を行う。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>○全体の正答率が、市平均を3.9ポイント上回った。</p>	<p>・古典の基本的な知識の定着を図るために、現代語とは異なる言葉や表現に注意して朗読し、古典の言葉やその意味を理解できるようにする。</p> <p>・古典作品の世界をより深く理解し、古典に親しむ態度を育てるために、作品の歴史的背景等を学習する時間を設ける。</p>
話すこと・聞くこと	<p>○「話の展開を予測しながら聞く」問いの正答率は、市平均と同程度であった。</p> <p>●全体の正答率が、市平均を4.8ポイント下回った。</p> <p>●「自分の考えが分かりやすくなるように表現を工夫する」問いでは、市平均を10.3ポイント下回った。</p>	<p>・目的意識をもって話す学習活動を通して、資料や機器を活用しながら、自分の考えを分かりやすく伝える力を育成する。</p> <p>・自分と相手の考えを比較しながら聞く活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることを意識させる。</p>
書くこと	<p>○「自分の考えを明確にして書く」問いの正答率は、市平均と同程度であった。</p> <p>●全体の正答率が、市平均を4.9ポイント下回った。特に「情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する」問いでは、正答率が6割に満たなかった。</p>	<p>・書く活動の回数を増やしたり、内容の工夫をしたりすることで、書くことへの抵抗感を払拭していく。</p> <p>・ワークシートを工夫して、主張を明確に伝えるための表現や構成を考えさせた文章を書く学習活動を行う。</p>
読むこと	<p>○「文章の構成や論理の展開について評価する」問いの正答率は、市平均と同程度であった。</p> <p>●全体の正答率が、市平均を2.4ポイント下回った。特に、「物語の展開の仕方を捉える」問いの正答率は、市平均を6.2ポイント下回った。</p>	<p>・説明的文章では、論の進め方や説明の仕方について捉え、それがもたらす効果を考える活動を行う。</p> <p>・文学的文章では、登場人物の心情の変化に沿って、展開の構成や展開を的確に捉えることのできるような活動を行う。</p>

宇都宮市立旭中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	67.8	70.5	62.1
	歴史的分野	66.6	66.6	57.8
	公民的分野	52.7	53.3	45.2
観点別	知識・技能	66.3	67.6	59.2
	思考・判断・表現	63.6	64.5	55.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

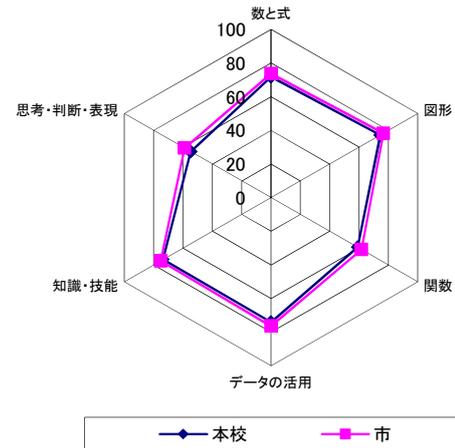
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○自然災害(地震)の設問における正答率が高い。 ●全体的に見ると、市の正答率より低い。 ●「世界の姿」や「世界各地の人々の生活と環境」など、1年生の分野での正答率が低い。 ●日本の資源・エネルギー問題について考察する設問の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の略地図を書けるようにし、地形や気候と関連付けて地域の特徴を表せるようにする。 ○資料を活用して考察する作業を授業で取り入れていく。
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○古代の分野での正答率が全体と比較すると高い。 ●資料を読み取り判断する設問の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○複数の資料を読み取り、考えを表現することについてはこれまでも課題とされていたところなので、授業でも複数の資料を読み取り、文章化することに取り組みたい。
公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○日本国憲法の三大原則や「公共の福祉」など、日本国憲法についての正答率が高い。 ●全体的に見ると、市の正答率より低い。 ●社会権の種類についての理解ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公民的分野では、現代の社会に関する課題も学習するので、歴史的分野と関連付けて、社会の変化と現代社会の課題について学習していきたい。 ○日本国憲法は国の最高法規であるため、きちんと読み込み、内容の理解に努めたい。

宇都宮市立旭中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	71.8	73.8	71.4
	図形	74.5	76.7	67.9
	関数	59.0	61.6	52.2
	データの活用	74.1	76.4	65.4
観点別	知識・技能	73.6	75.2	69.9
	思考・判断・表現	54.6	58.9	48.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

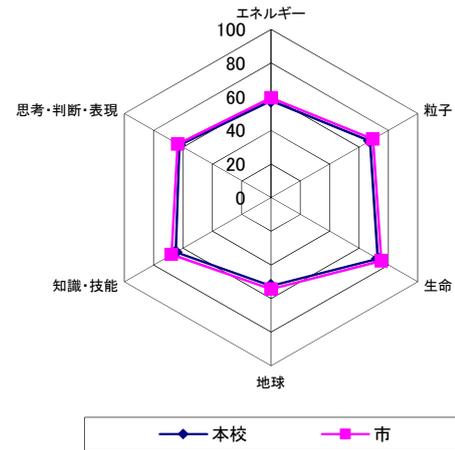
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○平方根の大小や正負の数の乗法の計算では、市平均よりそれぞれ1.0、0.7ポイント高い。</p> <p>●「数と式」領域全体では正答率が市平均よりも2.0ポイント低い。特に、解の公式等を用いて計算する問題では、正答率が市平均よりも6.3ポイント低い。</p>	<p>○基本計算を繰り返し行い、技能を高める。</p> <p>●計算分野の授業を行ってから時間が経っているため、定期的に計算練習をする機会を設ける。</p>
図形	<p>○平行移動について考える問題では、正答率が市平均よりも3.6ポイント高い。</p> <p>●「図形」領域全体では正答率が市平均よりも2.2ポイント低い。特に、角の二等分線を作図する問題では、正答率が市平均よりも9.1ポイント低い。</p>	<p>○作図の問題を数多く行い、考え方が理解できるまで繰り返し行う。</p> <p>●いろいろな図形の面積や体積の求め方を1年生で学習するので、多くの問題に触れ、計算技能を高める指導を行う。</p>
関数	<p>○反比例の関係とその式を求める問題では、正答率が市平均よりも7.1ポイント低い。</p> <p>●「関数」領域全体では、正答率が市平均よりも2.6ポイント低い。特に、座標軸上に頂点をもつ三角形の面積を求める問題では、市平均よりも10.8ポイント低い。</p>	<p>○グラフから座標を求めたり、わかっている座標から式を求めたりするなど、関連性を持たせた活動を継続する。</p> <p>●グラフからどのようなことが読み取れるかを考えさせ、読み取った値から計算させたりする活動の充実を図る。</p>
データの活用	<p>○組み合わせを考える問題では、正答率が市平均よりも1.1ポイント高い。</p> <p>●「データの活用」領域全体では、正答率が市平均よりも2.3ポイント低い。特に、ヒストグラムの階級の度数について考える問題では、正答率が市平均よりも5.1ポイント低い。</p>	<p>○確率を求めるうえで、樹形図や表を書くことで起こりうる場合が何通りあるかを把握させる指導を行う。</p> <p>●データからいろいろな表を作成した際、その表の特徴や複数の表を比較したときの特徴を考えさせる活動をする。</p>

宇都宮市立旭中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	57.6	59.3	62.1
	粒子	67.4	69.5	66.8
	生命	72.7	75.2	70.9
	地球	52.5	54.4	52.0
観点別	知識・技能	64.9	67.7	67.2
	思考・判断・表現	62.4	63.7	60.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

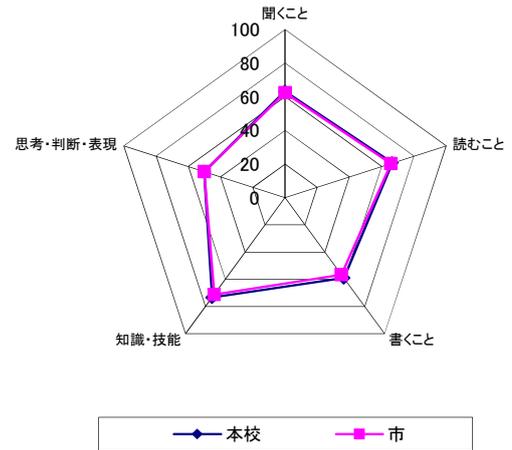
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○反射した光の道すじを考える問題では、市正答率を4.2ポイント、全国正答率を12.3ポイント上回っている。テープの長さから平均の速さを求める問題でも、市、全国正答率をそれぞれ上回っている。 ●エネルギーの領域全体では市正答率より1.7ポイント低い。知識を問う問題の正答率が市を下回っている。	・実験後の振り返りやまとめの時間の充実をはかり、事象の本質に目を向けながら基本的な知識の定着を目指す。
粒子	○物質の見分け方に関する問題では、市正答率を2.3ポイント、全国正答率を15.0ポイント上回っている。 ●メスシリンダーを使った体積の測定や、化学反応式の記述の問題など、基本的な知識を問う問題の正答率が市正答率を下回っている。	・原子や分子がイメージできるよう、原子モデルなどを活用して理解を深めさせる。
生命	○スケッチや白血球のはたらき、有性生殖の例など基本知識を問う選択式の問題では、市正答率、全国正答率を上回っている。 ●短答形式で解答する問題は、すべて市の正答率を下回っている。特に減数分裂に関する問いでは、市正答率を大きく下回っている。	・語句と語句のつながりを持たせて理解できるよう、図を提示するなど視覚的な工夫を行う。
地球	○気象の分野における大気圧の大きさや水面上昇に関する問題では、市正答率より0.1ポイント、2.2ポイントそれぞれ上回っている。 ●気象の分野における正答率が3割前後であり、定着に課題がみられる。	・気象分野においては、風の吹く仕組みや日本の四季、世界の大気の動きなど、社会科とのつながりを意識させることで、理解を深めさせる。 ・年度末に扱う分野であり、知識の定着に時間をかけられないことが多いため、問題演習の時間を多めにとる。

宇都宮市立旭中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	63.2	62.4	59.8
	読むこと	66.6	65.7	58.5
	書くこと	59.0	56.8	43.5
観点別	知識・技能	73.3	71.2	65.3
	思考・判断・表現	50.2	50.1	40.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○英文を聞き、その内容を理解して、英文の内容に合う絵を選んでいる。(天候の説明)では市平均正答率を8.7ポイント上回っている。</p> <p>●日常的な話題について聞き、必要な情報を把握する問題では市平均正答率を6.8ポイント下回っている。</p>	<p>・生徒同士の対話活動や教師との対話の場面を適切に設けることで日常会話の機会を十分に設ける。</p>
読むこと	<p>○メールを読み、代名詞itが指している内容を理解する問題では、市平均正答率を4.4ポイント上回っている。</p> <p>●対話文を読み文構造や文法事項を理解する問題(副詞的用法の不定詞)では、市平均正答率を4.5ポイント下回っている。</p>	<p>・不定詞の用法について、複数の用法を比較しながら知識の整理を行う。</p>
書くこと	<p>○文の語順を理解し、正確に答える問題では、市平均正答率を10.2ポイント上回っている。</p> <p>●学校の制服について、自分の考えに対する理由や説明を相手に伝えるように書く問題では、市平均正答率を3.9ポイント下回っている。</p>	<p>・生徒自身が、場面や状況、目的に応じて適切な英語で自分の考えを伝えられるような言語活動を設ける。</p>

宇都宮市立旭中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の定借を図る	<p>自主学习ノート(実施7年目)を使って、生徒自らが学習課題を考え、毎日1ページ程度取り組み、提出するよう指導する。教室の前面黒板左上部に「学習のめあて」と書かれた表示板を掲示しておき、授業で活用する。</p>	<p>学習に対して「自分から進んで取り組んでいる」の問いかけに対する本校の肯定的回答は2年生68.9ポイントと市の肯定的回答よりも高いが、1年生65.2ポイント、3年生は71.9ポイントで、市の肯定的割合よりも低い結果である。</p> <p>平日の学習時間は、1時間半以上が1年生で43.3ポイントで市の肯定的割合より0.2ポイント低い。2年生は49.6ポイントで市の肯定的割合より5.1ポイント高く、3年生も74.6ポイントであるが、市の肯定的割合より8.6ポイント低い結果であった。</p> <p>「授業で習ったことをその日のうちに復習している」という問いに関しては、1年生39.0ポイントで市の肯定的割合よりも1.0ポイント低い。2年生は33.1ポイントで市の肯定的割合より1.1ポイント高く、3年生では、35.9ポイントで市の肯定的割合より1.5ポイント低い結果であった。この傾向は、全国学力・学習状況調査、とぎちっ子学習状況調査においても同様である。</p>
書かせる指導の充実	<p>学習活動、振り返りの場面で、ワークシートや振り返り用紙に書かせることを意図的に設定し(一部タブレットも使用)活動に取り組む。</p>	<p>5教科の調査問題を解答形式別に見ると、記述式では、国語の紹介する文章を書く問題で61.5ポイント、文章を書く問題で70.9ポイントで、それぞれ市の肯定的割合より2.8ポイント5.7ポイント低い結果である。他の教科においても、概して書く問題は苦手な傾向が見られる。</p>

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」という問いへの本校の肯定的回答は、1年生56.7ポイントで市の肯定的割合よりも0.2ポイント高く、2年生では58.9ポイントで市の肯定的割合より9.4ポイント高い、3年生は、58.2ポイントで市の肯定的割合より4.3ポイント低い結果となっている。家庭での復習等や学習習慣の確立を図るために実施してきた、自主学习ノート活用の見直しや工夫を図る必要がある。

また、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るため、朝の学習で行っているA Iドリルの活用についても、計画性を持った活用や知識・技能の定着度合いを確認するための「統一テスト」の実施など、次年度の宇都宮市の重点指導項目とも連携を図った取組を本年度中に検討し、4月からの実践を図る。